

北里大学病院を受診された患者さん・ご家族の方へ

当院では下記の臨床研究を行っています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究課題名 (受付番号/承認番号)	術中運動誘発電位モニタリングの有用性と問題点についての単施設後方視的研究 (B23-161)
当院の研究責任者 (所属・職位)	医学部脳神経外科学 講師 佐藤 澄人
他の研究機関および 各施設の研究責任者	ありません
本研究の概要・背景・目的	脳の運動野やその神経の通過経路に近接した腫瘍を摘出する手術では、術後に運動麻痺を生じるリスクがあります。そのような合併症を防ぐには、術中に運動誘発電位を記録・監視する方法が有用とされています。運動誘発電位とは、脳の運動野の電気刺激によって起こる手足の運動反応を記録するもので、全身麻酔下でも運動機能を監視することができます。当科でも運動誘発電位モニタリングを行っており合併症の防止に役立っておりますが、少数ながら無効例もあり問題点も残されています。本研究は、当院で開頭腫瘍摘出術中に運動誘発電位モニタリングを行った患者さんを対象に診療録を調査し、その有用性と問題点を明らかにすることにより、より信頼性の高いモニタリング法の確立を目指したものです。
調査データ 該当期間	2013年4月1日から2024年2月29日までの情報を調査対象とします。
対象となる患者さん	2013年4月1日から2023年8月31日までに当院に入院され、開頭腫瘍摘出術を受けた患者さん
研究の方法 (使用する試料等)	利用する情報 2013年4月1日から2024年2月29日までの電子カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します。
試料/情報の 他の研究機関への 提供 および提供方法	他の機関への試料・情報の提供はありません。
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究の遂行のための費用は、脳神経外科学医局研究費を使用します。研究に関する利益相反は、北里大学利益相反委員会で審査を受け、適切に管理されます。
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。 また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究の対象としないので、下

	<p>記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には提供していた試料・情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 所属・職位：脳神経外科・講師 担当者：佐藤 澄人(サトウ スミト) 電 話：042-778-9337</p>
備 考	